



ショートコメント

★★★

Data 2023-85

# 遠いところ

2022年/日本映画

配給：ラビットハウス/128分

2023 (令和5) 年7月20日鑑賞

シネ・リーブル梅田

監督・脚本：工藤将亮

出演：花瀬琴音/石田夢実/

佐久間祥朗/長谷川

月起/松岡依都美/

小倉綾乃/MENE/奥

平紫乃/高橋雄祐/

カトウシンスケ/中

島歩/岩谷健司/岩

永洋昭/米本学仁

## 👁️👁️ みどころ

沖縄は県民所得が全国で最下位なのに、若年層（19歳以下）の出産率は全国一位！アオイは17歳にして、幼い健吾と夫マサヤの3人暮らした。

昼間のバイトは時給792円だが、キャバクラなら2500円だから、マサヤさえまともに働けば、「健康で文化的な最低限度の生活」は可能なはず。それなのに、なぜアオイはヒモみたいなスカタン男マサヤと一緒に？それでも“ヤル”ことだけはしっかり“ヤッテ”いるから、アレレ、アレレ・・・。

今の日本では、こんな“貧困にあえぐ日本の性差別を、痛烈に告発する溝口健二的な現代悲劇”を描く映画に寄り添うのがトレンドらしいが、私はそれに大反対！キャバクラがダメなら、風俗があるさ！さらに“売り”があるさ！そんなストーリー展開と、市の福祉課からの援助を拒絶するアオイの姿にもアレレ、アレレ・・・？

こんな映画がもてはやされる今の日本はどこかおかしいのでは！マサヤはどうしようもないバカ者だが、せめてアオイだけでもしっかりしろよ！

—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————

◆沖縄は、1人当たりの県民所得が全国で最下位。また、非正規労働者の割合や、ひとり親世帯（母子・父子世帯）の比率でも全国1位（2022年5月公表記「沖縄子ども調査」）。さらに、若年層（19歳以下）の出産率でも全国1位になっているようだ。

◆本作冒頭、私も旅行したことがある、いかにも沖縄らしい風景が映し出された後、キャバクラで働いているアオイ（花瀬琴音）やその友人・海音（石田夢実）の姿が映し出される。私もバブル時代に生まれた“キャバクラ”なるところに数回行ったことがあるが、普通のクラブやラウンジ、スナックと比べてキャバクラがより好きかどうかは、人によって違うはずだ。

その理由はいろいろ複雑だが、私の感覚ではキャバクラは若くて可愛い女の子（いわゆる

るピチピチギャル)が多いものの、会話の深みや連続性、継続性がなく、私がいつも求めていた、“ホステスと客の仲”とは別の、人間的な理解や繋がりを作ることが難しいことが最大の理由だ。料金だってシステム上は一見安そうだが、チェンジ、チェンジを繰り返すと、結局高くつくことに・・・。

◆それはともかく、本作で注目すべきは、第1に未成年のアオイや海音が年齢を偽って深夜のキャバクラで働いていること、第2に彼女らの時給が2500円と安いことだ。夫のマサヤ(佐久間祥朗)、幼い息子の健吾と3人暮らしのアオイは、健吾をおばあに預けて働いていたが、建築現場で働いているマサヤの働きぶりは？

マサヤはいかにも“沖縄男児”というハンサムな顔立ちの男(?)だが、昼間の職場で雇い主からお説教されている姿や、わずかの貯金をタンスから持ち出し飲み屋にしけ込んでいるマサヤの姿を見ると、こりゃハッキリ言ってダメ男!アオイはなぜこんな男と一緒にになり、子供まで産んだの?もっとも、カネと働き口を巡って夫婦ゲンカを繰り返しながらも“ヤル時”はせつせと“やっている”2人の姿を見ると、こりゃどちらも最悪!沖縄の若者よ、しっかりしろ!男も女も甘えるな!思わず私はそう叫びたくなってしまったが・・・。

◆キャバクラ嬢の時給が2500円の沖縄では、お昼の仕事の時給は792円らしい。岸田文雄総理の下で唱えられた、「新しい資本主義」の下では、正規雇用者の基本給アップのほか、非正規雇用者の時給についても「最低1000円にしよう」との動きが強まっているが、本作の設定はあくまで792円だ。

キャバクラでの未成年者の深夜勤務が問題視されているゴザ市では、近時、警察の取り締まりが厳しいらしい。そのため、アオイは別のキャバクラ店でも雇ってもらえず、止むなく昼間の仕事の面接に行くと、「雇ってもいいが、時給は792円」と言われ、尻込みしているらしい。「小さい子供がいるから」とアオイは弁解していたが、若くして健吾を生んだアオイには、健吾の世話をしてくれる、まだ若いおばあが近くに住んでいるのでは?さらに、昼間に8時間働けば必然的に遊び時間も減るから、その分出費も減るはず。さらに、自宅の水道光熱費等も減るから、若夫婦と健吾だけならマサヤの収入と合わせ、憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」を営めるはずだ。マサヤの給料がいくらかは知らないが、どんな肉体労働でも嫌がらずに昼間8時間働き、多少は残業もやれば一家3人、貧しいながらも楽しい家庭を築けるはずだ。ああ、それなのに、スクリーン上に見るアオイは・・・?そしてマサヤは・・・?

◆ネット情報では、本作は第56回カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭クリスタル・グローブ・コンペティション部門に出品され、Variety誌が「貧困にあえぐ日本の性差別を、痛烈に告

発する。溝口健二的な現代悲劇。」と激賞したそうだが、私はそんな評価に大反対！マサヤはどうしようもないが、せめてアオイだけでもしっかりしろよ！

“風俗”を通り越して、今や“売り”で生計を立てているアオイだが、このままでは本人はもとより、健吾も共倒れ・・・！そんな状況下、遂に市の福祉課が援助の手を差し伸べ、健吾を施設に連れて行くことになったが、アオイはこれにも猛反発！おいおい、それに反対なら、お前一人でどうするの？声を大にしてそう言いたい私だが、本作ラストに向けて、そんなアオイは更に常軌を逸する行動を・・・。

こんな映画の一体どこに共感しろというの？いくら沖縄でも、いくら時給792円でも、私は本作に見るようなアオイの生き方には全く同感できないし、“寄り添う”こともできない。さて、あなたは・・・？

2023（令和5）年7月24日記

「遠いところ」(日本映画・2022年)

邦2023-85 ★★★

<シネ・リーブル梅田>

2023(令和5)年7月20日鑑賞

2023(令和5)年7月24日記

監督・脚本：工藤将亮

出演：

アオイ(17歳) / 花瀬琴音

海音(ミオ)(アオイの友人) / 石田夢実

マサヤ(アオイの夫) / 佐久間祥朗

/ 長谷川月起

/ 松岡依都美

/ 小倉綾乃

/ NENE

/ 奥平紫乃

/ 高橋雄祐

/ カトウシンスケ

/ 中島歩

/ 岩谷健司

/ 岩永洋昭

/ 米本学仁

/ 浜田信也

/ 尚玄

/ 上地春奈

/ きゃんひとみ

/ 早織

/ 宇野祥平

/ 池田成志

/ 吉田妙子

配給：ラビットハウス / 128分